

腰部脊柱管狭窄症を合併した骨粗鬆症 患者に対するエルカトニン治療の経験

お 生 ごし えい じ¹⁾ ま にわ まさ と²⁾
 越 英 馬 庭 昌 人

キーワード：腰部脊柱管狭窄症，骨粗鬆症，エルカトニン

要 旨

平成18年10月より平成19年4月までの当院外来を受診した平均年齢75才，腰部脊柱管狭窄症を合併した骨粗鬆症患者女性6例にエルカトニン療法を行い，日整会腰痛疾患治療成績判定基準で評価した。

エルカトニン治療により腰痛，下肢痛およびシビレ，歩行能力など自覚症状の改善，日常生活動作の改善があった。

エルカトニンは腰部脊柱管狭窄症を合併した高齢者の骨粗鬆症患者に有用な治療選択肢の一つであると考えられる。

はじめに

高齢化により骨粗鬆症と腰部脊柱管狭窄症が増加しており，日常生活動作が阻害され，QOLにも大きな影響を与える。そして腰部脊柱管狭窄症を合併した骨粗鬆症の患者を経験する機会も多くなってきている。エルカトニンは骨粗鬆症における腰背部痛に対して有効性を示す多くの報告があり，骨粗鬆症の治療に用いられている。また腰部脊柱管狭窄症の間欠跛行にも有効なことが報告されている。

今回腰部脊柱管狭窄症を合併した骨粗鬆症患者6例を経験し，エルカトニンを投与し，その効果を検討したので報告する。

I. 対象症例

対象症例は平成18年10月より平成19年4月までの当院外来を受診した平均年齢75才（73~79才）女性6例の腰部脊柱管狭窄症を合併した骨粗鬆症患者が対象である。骨粗鬆症は腰椎X線像，骨密度測定（橈骨遠位端 DXA）により診断した。YAM（若年成人平均値，20~44才）の平均値は63%であった。腰部脊柱管狭窄症は間欠跛行などの臨床症状とMRIで診断した。

腰部脊柱管狭窄症は馬尾型2例，神経根型4例で膀胱機能障害はない。腰部脊柱管狭窄症の生活

Eiji OGOSHI et al.

1) (医)慶生会 生越整形外科クリニック

2) (医)出雲整形外科クリニック

連絡先：〒694-0064 大田市大田町大田イ263-8